

一般社団法人日本体力医学会定例理事会（2022年11月）議事録

日 時：2022年11月18日（金）午後5時30分～7時10分

場 所：ZoomによるWeb会議

議 長：鈴木政登理事長

出席者：鈴木政登理事長、碓井外幸副理事長、
赤間高雄、井福裕俊、太田 真、大野 誠、
後藤勝正、小山勝弘、下光輝一、新開省二、
須田和裕、須永美歌子、竹森 重、
田中喜代次、成田和穂、宮内 卓、宮川俊平、
和気秀文各理事、
井上 茂、清田 寛、定本朋子各監事、
小橋 元第77回大会長、
松山郁夫第78回大会長、
山津幸司第78回大会事務局

欠席者：西平賀昭副理事長、武政 徹常務理事、
栗原 敏、中里浩一、永富良一、浜岡隆文、
前田清司各理事、小林康孝監事

【審議事項】

1. 前回議事録の承認（鈴木理事長）

理事会終了時までに訂正等がなかった場合には、自動的に承認されることにした。

2. 選挙管理委員会について（鈴木理事長）

選挙管理委員会業務執行役の西平理事が欠席であったため、西平理事に代わり、鈴木理事長から報告があった。

資料に基づき、選挙管理委員会の構成が提示され、承認された。

委員長：須田和裕

委員：武政 徹、前田清司

3. 選挙方式の選択について（鈴木理事長）

鈴木理事長より、2023年に行われる体力医学会役員選挙について、資料に基づき、従来のマークシート方式から、オンラインによる投票での選挙実施方法を事務局から提案された旨、説明があった。オンライン投票機能システムを用いた場合、従来のマークシート方式に比べ、選挙費用は4分の1程度になることと、パスワード保護されたファイルで投票結果を確認するため、選挙管理委員が開票会場に集まる必要が無く、費用の削減および選挙管理委員への負担が軽減される等の利点が説明された。続いて、事務局より、資料に基づき、オンライン投票機能システムの概要の説明があった。

審議の結果、従来のマークシート方式から、このオンラインによる投票機能を使用し、選挙を行うことが承認された。

4. 役員選挙日程について（須田選挙管理委員長）

資料に基づき、2023年に行われる、オンラインによる投票機能を使用した場合の選挙日程について説明された。理事候補、評議員会長候補及び監事候補の選出等に関わる定款、定款施行細則と役員を選出に関する規程が説明され、理事・評議員会長・監事の選挙後に、

理事長・副理事長・常務理事の選挙を行うことが確認された。また、選挙開票後から内諾期間を一ヶ月間設けているとの説明があり、2023年の選挙日程が承認された。

5. 会員数減少抑制対策について（鈴木理事長）

2021年8月27日定例理事会より継続審議されている会員数減少抑制対策について、資料に基づき、各年度の学会会員数、学会誌の原著論文投稿数の推移について説明があった。減少傾向にある学会会員数を鑑み、退会者数を減らす具体的な方策に特化した委員会を立ち上げるため、学術委員会、渉外委員会、広報委員会の各委員長と、編集委員会の委員長及び副委員長をコアメンバーとした、「会員数減少抑制対策検討委員会」の発足が提案され、承認された。尚、この委員会の活動は、2023年定時社員総会の終結の時までとした。

6. シニア会員候補者について（鈴木理事長）

武政総務委員長が欠席であったため、武政総務委員長に代わり、鈴木理事長から報告があった。

資料に基づき、シニア会員の申請資格対象者が報告され、審議の結果、承認された。昨年同様の通知方法により、事務局から「シニア会員のご案内」を対象者へ個別メールまたは郵送にて連絡を行うこととなった。

7. 評議員申請書改訂について

（大野評議員選考委員長、後藤編集委員長）

後藤編集委員長より、先般の学会誌「体力科学」・「JPFMS」の編集業務の中で、査読辞退が続き、査読者の確保が困難な状況となっており、今後、投稿数の減少および発刊維持が困難になる等の事態に陥りかねない旨、説明があった。これについて、編集委員会で打開策を検討し、評議員申請書に学会誌の査読を受けることを要件にした項目を記載することが提案された。これについて、大野評議員選考委員長より、評議員選考委員会で申請書の改定の審議を行い、承認されたことが報告された。この評議員申請書改訂について、本理事会で審議され、承認された。改定された評議員申請書の施行日は11月19日とした。また、現評議員への査読に関するお願いとその具体策については、評議員会長と編集委員会で検討することとなった。

8. その他

1) 第100回記念日本生理学会シンポジウムについて（和気理事）

2022年10月14日でのメール審議で承認された、来年3月に開催される「日本生理学会第100回記念大会」での当学会共催シンポジウムについて説明された。

2) 第31回日本医学会総会資料について（下光理事）

第31回日本医学会総会の当学会登録推進委員会である下光理事より、事前に配布されたリーフレットに基づき、本会の開催概要について説明された。

3) インボイス制度について（事務局）

資料に基づき、2023年10月から実施される「インボイス発行事業者」（適格請求書発行事業者）について、登録へのメリット及びデメリットが説明され、適格請求書発行事業者への登録申請をすることが承認された。

【報告事項】

1. 各種委員会報告

1) 編集委員会（後藤編集委員長）

資料に基づき、「JPFMSM」誌、「体力科学」誌の投稿・掲載状況が報告された。

1. 「JPFMSM」誌、「体力科学」誌の投稿・掲載状況 <投稿状況>(2022年9月1日～2022年10月31日)

「JPFMSM」誌：新規投稿9編

※前年同期間：新規投稿16編（内海外4編）

10/31現在、審査中10編(2022/1/27～10/31投稿分)

「体力科学」誌：新規投稿5編

※前年同期間：新規投稿8編

10/31現在、審査中7編(2022/7/6～10/31投稿分)

<掲載予定>

「JPFMSM」誌

○Vol. 11, No. 6（2022年11月25日発行）

Proceedings476編（予稿集掲載分674編）

○Vol. 12, No. 1（2023年1月25日発行）

Regular Article 4編

「体力科学」誌

○Vol. 71, No. 6（2022年12月1日発行）

原著6編

○Vol. 72, No. 1（2023年2月1日発行）

大会指定演題

○Vol. 72, No. 2（2023年4月1日発行）

原著3編，資料2編

2. 研究倫理に関するガイドライン改正に伴い、「体力科学」投稿規定改訂（2022年9月13日）

3. JPFMSM「J-STAGE Data」利用開始、HPでお知らせ（2022年9月22日）

2) 渉外委員会（和気渉外副委員長）

資料に基づき、渉外委員会の活動進捗状況が報告された。

1. 学会HPでの渉外委員会所掌の学術交流支援活動の年間計画の紹介

(ア) 国際学術交流

1) 国際学術交流奨励賞

2) 国際学会交流事業

3) ECSS交流事業

(イ) JSPFMSM-ECSS Exchange Symposium

2. 韓国運動生理学会交流事業

3. その他の国際学会との連携・交流

(ア) 国際生理科学連合（IUPS）

(イ) アジアオセアニア国際生理学連合（FAOPS）

(ウ) アジアスポーツ科学会議（ACCESS）

(エ) アジアスポーツ医学連盟（AFSM）

(オ) 国際スポーツ医学連盟（FIMS）

(カ) その他

4. 主要関連国際学術団体の紹介

(ア) 渉外委員会として推奨する国際学術集會を

紹介する。

ACSM, ECSS, ISPAH, IBEC, IUPS, FAOPS, IPE, IBE, ISBNPA, BASEM, ASN, FIMS, ACCESS, ASK その他。

(イ) 国内学術交流

1) 日本医学会連合TEAM事業「フレイル・ロコモ対策会議」企画

「フレイル・ロコモを予防する：80GOの実現へ向けて」

2) 日本生理学会の合同シンポジウム企画

3) 国際学術交流

4) 国際学術交流奨励賞 今年度より再開

①2022年4月～2023年3月31日までの国内外で開催された国際学会（5カ国以上が参加する学会）での発表を評価

②筆頭演者としてオリジナルな演題を発表している若手を中心とする学会会員

③最優秀賞1名，優秀賞3名（口頭30万円，20万円，ポスター15万円，10万円）

④5月締め切り後，2ヶ月で審査選考を実施。

5. 2023 ECSS JSPFMSM-ECSS交流シンポジウムシンポジスト推薦決定

(ア) 中京大学 紙上敬太先生（座長・演者）

シンポジウムタイトル：

Complex effects of acute exercise on cognition

演者：紙上敬太（中京大学），Sebastian Ludya

（Basel大学），Lauren B. Raine（Northeastern

大学）ECSSで企画が採択された場合，学会として会員を支援

6. 韓国運動生理学会交流事業

日時：4月7日（金）～8日（土）

場所：檀国大学校（天安）

7. AFSM アジアスポーツ医学連盟Executive Committee 2022.12.17（Hong Kong）

渉外委員会委員長が対応予定。

2. 第77回（栃木）大会の進捗状況（小橋第77回大会長）

小橋大会長より、第77回大会の以下の事項について報告された。

・参加人数：1,325名

・発表演題数：678題

・シンポジウム：32セッション

・特別企画：7講演

尚、大会開催費用については支払いを済ませ、公認会計士による監査終了後、次回理事会で大会の収支報告をする予定である。

3. 日本体力医学会2023年東京シンポジウムについて（鈴木理事長）

前田大会事務局長が欠席であったため、鈴木理事長より、資料に基づき「日本体力医学会2023年東京シンポジウム」の進捗状況が報告された。

4. 第78回（佐賀）大会の進捗状況（松山第78回大会長）

大会事務局の山津幸司氏より、大会の準備状況について報告された。